



利益率と企業倫理性と健全性

令和6年8月28日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業判断における製品の利益性は、企業内における企業倫理判断を基盤とするという新しい提案を行うものである。これらは利益の追求という現実に対して、倫理的判断における価格設定が必ず存在するのである。

これらが利益の追求という企業の現実に対して、正しい製品の供給と販売を与えるという判断を提示するものである。

これら利益の追求という企業環境に対して、企業の絶対的な健全性を与えるものなのである。

これらは企業が利益の追求という現実に対して、企業の理念や社会責任における自己という相違性を与えるのである。

これら企業の基盤が飛躍し新しい時代と未来における自己を与えるという判断は必ず存在するのである。

これら企業風土が創造性を生み、正しい企業サイクルの創造とともに、企業の健全な自己構築を与えるという現実は必ず存在するのである。

これら製品価格と原価コスト、利益性の健全性は、正しい企業経営の基盤なのである。

これら優れた企業風土が製品と販売を与え、需要の適正化とともに、企業経営の安定性を与えるのである。

これら企業サイクルは新しい時代の現実である創造性や独創性を求め、正しい時代と市場、グローバル化へのアクセスを可能とできるのである。

これら企業の健全性は企業の発展の正しい基盤であり土台なのである。これらが時代性とともに、新しい企業への転換を求めるとき、それら新しい可能性という企業の現実が実現できるのである。